

知事と県民の意見交換会（雄勝地域振興局）議事要旨

- テーマ : 地域を守る建設業～女性や若手の定着事例から考える担い手確保～
- 日時 : 令和5年7月7日（金）14：30～16：30
- 場所 : 羽後町西馬音内盆踊り会館

知事挨拶

毎年、色々なジャンル、色々なメンバーで意見交換を実施し、一生懸命取り組まれている現場の声、日ごろ思うこと、今後どのようにしていきたいかなど、自由にお話をいただきながら、参考になる点があれば県政に生かしていくこととしている。

知事として、実際に現場で汗を流して頑張っている方がどう思っているのか、日ごろから耳を傾けようと努力しているが、頻繁に現場に行くこともなかなか難しい。

特に建設業は、冬の除雪をはじめ、生活基盤の建設やメンテナンスを担うなど、非常に重要な仕事。人手不足の問題がある一方、自動化など新しい技術が普及することで、変化してきた面も多くある。建設業は地域に必須の重要な産業であり、皆さんから現場の課題、声などを聞きながら県政に反映させるとともに、中長期にわたる変化を想定しながら行政を進める必要もある。現在若手の皆さんが、将来はリーダーとして現場で動くこととなる。皆さんの自由な話を聞き、私も色々な面で勉強したいと思う。

意見交換

（局長）

本日は「地域を守る建設業～女性や若手の定着事例から考える人材確保～」をテーマに、若手従業員、女性技術者、若手経営者それぞれの立場から意見交換をしていただく。

（進行役）

まずは、人材確保について、我々の業界、建設業協会が取り組んできたことをおさらいする。コロナ禍前は、湯沢翔北高校、増田高校、当時の雄勝高校に出向き、建設業がどんなことをするのか伝える出前講座を実施してきた。コロナ禍以後は、湯沢翔北高校雄勝校にて実施している。出前講座では高校の先生も我々の話を聞いてくれるため、生徒のみならず、進路指導に当たる教職員が建設業に対する理解を深めてくれていると実感している。

また、新入社員研修を実施している。各社、数人しか採用がない中、自社で時間を割いて新入社員研修を実施するのは難しいため、業界として研修を実施し8年になる。1日かけて、挨拶の仕方から、なぜ働くのかという哲学的なところまで、一生懸命伝えさせてもらっている。

振興局で小学生向け、中学生向けの建設業フェスタなどをやっているが、協会として大人向けにもやろうということで、ハローワークで求職者向けに説明会などを実施している。湯沢翔北高校雄勝校の測量コースでは、協会のメンバーが測量現場の作業を教えており、今後も続けていきたいと考えている。課題は、土木の先生がいないことである。

（A氏）

昨年、2年生の測量コースで授業をした際、先生方の変なことを改めて感じた。教壇に立つと、少し

格好つけて専門用語を言いたくなるが、あまりにも多用すると伝わらない。建設業を知ってもらおうという目的を伝えるために、考えることがたくさんあった。

(進行役)

「建設業体験フェスタ」を5年ほどやっている。各社単独で数日間のインターンシップを受け入れるのはなかなか難しいので、業界として取り組んでいる。夏休みの5日間のプログラムで、最初の2日間で、まずは小型車輛系の免許を取得してもらう。費用は協会が負担して、取得した免許は学校の先生に預かってもらい、卒業と同時に渡してもらうことにしている。建設業に就職する生徒はもちろん役に立つ資格だが、他の業種に就職しても、駐車場の除雪など役に立つので積極的に実施している。3日目は現場見学を実施し、横堀道路などの大きなプロジェクトの現場でICT活用の様子などを見ってもらう。4、5日目は、専門工事の体験を行う。専門工事業の職人が不足しているのが業界として大きな課題だが、今年4月には専門工事業に職人希望の就職があり、大変喜んでいる。今年4月に協会加入の企業に入社した新卒が全部で11人であることが、5年継続してきた成果である。ここ数年、採用数が増えてきており、協会としての取組が浸透してきていることを実感し、嬉しく思っている。

(B氏)

ドローンの実技指導で参加したが、参加者は皆、興味津々で話を聞いており、関心がなく違うことをしているような生徒は、一人としていなかった。

(知事)

私たちが子どもの頃は、穴を掘ったり、木の上に砦を作ったり、のこぎりを持ってきて色々な箱を作ったり、今では危ないと言われる遊びを多くやった。大学の工学部卒業後、県庁入庁前は、コマツ製作所でモータースクレーパーの開発に携わった。建設業でも、まねごとみたいなことを少しやるだけで子どもは興味を持つのではないか。ただ、今の子どもは、手を汚すような遊びをしないので難しいかもしれない。

(B氏)

自分自身の話だが、小さい頃は周りに男の子しかおらず、走り回ったり、川に土を盛ってせき止めようとしたり、土いじりをよくしていた。自分の子どもにもなるべく外遊びをさせたいと思っているが、やはりテレビを見る時間が長くなっている。

(C氏)

子どもは父親の真似をしたがるが、のこぎりなどはまだ持たせたことがない。今度、小学2年の児童が会社見学に来るが、40分という時間の制約に加え、今の子は親を含めて衛生管理が厳しく、汚いことをさせられない。中学生ならば、職業体験で生コンクリートを練らせたいと思うが、小学校の子どもたちに触らせるのは少し抵抗がある。

(A氏)

自分が子どもの頃はゲームなどもなく、家の外で砂場に水を流しながら、こんなふうに川ができるんだというのを学んだりした。そこが自分の原点だと思う。自分の子どもにも同じように遊ばせたいが、遊ぶ場所も少なくなり、子どもの数も減った。昔であれば、誰かが怪我をしても同年代の友達が

親に知らせてくれたが、安全面を考えても外で遊ぶのがなかなか難しい。

(進行役)

ここで、県建設業界がまとめている、全県の離職状況のグラフを見ていただく。3年以内に、3人に1人が進路変更している。せっかく建設業界に入ってきた学生に、長く働いてもらうことが大事だと思うが、これまで自社で離職した若手の離職理由からみても、やはり賃金の要因が大きいと感じる。

加えて、奨学金の問題。秋田県では、3年間で最大60万円の奨学金助成制度がある。我々建設業で、大卒人材がなかなかいないということもあり、利用は少ないかもしれない。

(知事)

奨学金をもらって大学に行く人が半分程度となっている。大卒で卒業時に約320万円、利子を入れれば400万円の借入れとなり、大きな負担となっている。奨学金の返還で苦しんでいる人が非常に多い。建設業と介護職は現在人材不足で、これらの分野に転職する際、職業訓練校に入ると助成がある。是非使っていただきたい。

(進行役)

我が社では、学生支援機構の奨学金代理返還制度を活用している。返還分を給料に上乗せすると、従業員の所得税が高くなるが、この制度の場合は企業が代理返還するので、従業員の税金は上がり、企業も損金算入できるというメリットがある。本来は、企業が全額負担するが、現在湯沢市で代理返還を行う企業に対し3割助成を行っており、この制度も活用している。

(D氏)

奨学金を借りて大学に行ったが、月々の返済はそれほど多くなくても、長い目で見ると結構な負担になるので、大変ありがたい。

(進行役)

奨学金の返済を考えると、少しでも給料の良い会社に行きたいというのが切実な問題だと思う。建設業界に大卒はなかなか来てくれないが、奨学金助成、代理返還などをPRする会社が増えれば良いと思っている。県内の建設会社でも、知らないところも多いと思う。例えば、経営事項審査の審査項目とするなどのインセンティブがあれば、取組が知られていき、結果、大学生の採用、定着に結び付くのではないかと思う。

(知事)

現在、県内で、年間の大卒求人が業種問わず2,300人程、充足率は半分以下である。進学率が高まり、県外の大学へ進学する人の方が多い。高卒は8割程が県内に就職するが、県外に進学した方々に秋田に戻って来てもらわないと人口問題は解消しない。奨学金については非常に大きなインセンティブになる可能性がある。

(進行役)

なかなか大卒を採用するのは難しい。個人的に、高校卒業後、測量の専門学校等に奨学金を借りて通い、それを企業が代理返済するというのを中学、高校のあたりから、進路の先生相手にでもPRしていくことで、そういう学校に進んでみようかと考えてくれないかとも思う。

(C氏)

振興局の事業で中学生向け「しごと博覧会」にオンラインで参加しているが、建設業という選択肢はこんなにわくわくして面白いということ、最初に伝えるようにしている。その際に、地域外に進学後、こうして戻ってくる方法があるということ、記憶のどこかに刻みつけて欲しいと、学校の先生方から要望されるようになってきている。自分自身も勉強不足だが、代理返済はPRしやすいと思うし、自社でも、外に出た人材は積極的に採用したいので、進めていきたいと思う。

(A氏)

先日、高校の先生と話した際、最近ではほとんどの人が進学すると言っていた。専門学校などに行ってしまうと、アプローチしづらいので、こうした取組で奨学金が返せるよとアピールできるのは良いと思う。

(進行役)

ひとり親家庭が結構存在し、高校でも奨学金を借りている人がいるという話を聞いた。こうした人たちは、給付型なのかは分からないが、代理返済のスキームを利用して、うちに来れば会社が代理返済するから入社しないか、ということができないかと思ったりする。

(知事)

先ほどの県の最大60万円の助成は高校も対象となっているが、数は本当に少ない。

(進行役)

子どもの絶対数が減ってくる中で、大学などの学校側も必死だと思う。また、高卒求人についても卒業生がどんどん減ってくるので、大学、短大、専門を卒業した人材の採用について、我々は今後どうしても考えていかないといけない。

(知事)

進学率が上がっており、県内外の大卒人材の知識を全ての産業で持たなければならない時代が来ている。ITの仕事が地方でもできるようになり、東成瀬村では第3セクターの会社を作り、地域おこし協力隊として30人以上が赴任している。現状で、半分以上の人が奨学金を借りて大学に通っているという点に目をつけ、県内の若い方が地元定着できる方法を、財政的観点も含め色々に検討している。

(進行役)

続いて、女性活躍について意見交換する。雄勝建設業協会女性部「はなこまち」の設立目的は、「建設業に携わる女性職員のネットワークを構築し、よりよい職場環境づくりのための提案や活動を実践し、女性の技術力や社会的地位の向上を図る」である。活動を通しての感想を伺う。

(B氏)

「はなこまち」では、中学や高校での出前講座、建設業フェスタなどのイベントへの参加のほか、日々の活動として、建設業の内容をSNSで発信している。はじめは、女性の活躍が目立たない状態だったが、広報の活動により認知されてきていると感じる。

(E氏)

全県組織の「クローバー」と連携し、秋田のイオンで昨年10月に開催された「けんせつ女子フェスタ」に参加し、全県女性部会の皆さんと交流するなど、大変良い機会を設けさせてもらっている。また、女性による現場パトロールでは、成瀬ダム工事現場に赴き、ラボでのVR体験もした。環境改善についても、協会全体で良くしていこうとアンケート調査を毎年行い、親会への要望書として提案している。

(建設産業活性化センター 職員)

県の建設業協会女性部についてお伝えする。令和2年度で、全県8建設業協会全てで女性部会が設立された。コロナ禍も落ち着き、積極的に活動を行っている。

(A氏)

先日、女性部会の総会にお邪魔した際、こうした会で、お互いの会社のやり方などについて情報交換などを行っている姿を見て感心した。

(知事)

女性部の要望は記憶に残る。地域性があるが、県内沿岸部の能代、秋田、男鹿、由利本荘では、建設業に対する求人、就職希望者も多い。これは洋上風力という仕事が注目されているためで、県外からも就職希望者がいる。こうした象徴的な仕事があれば、その地域は若干だが人が増えるというパターンがあるようだ。地域における建設業のプロジェクトが注目されると、就職希望が多くなる傾向があると感じる。あちこちにプロジェクトを作るのはなかなか難しいが、こうした機会を上手に使うこともできるのではと感じる。

(進行役)

湯沢では地熱のプロジェクトがあり、総発電量で比べると洋上風力には足元にも及ばないが、各社で仕事を受注しているので、再生可能エネルギーに関連した事業が増えればと思う。

次は、外国人技能実習生について意見交換する。

(A氏)

小野建設では、外国人技能実習生を受け入れており、8名の実習生がいる。3期に分け、型枠、掘削積込、締固めの作業をやってもらっている。技術指導だけではなく、安全大会後のバーベキューと一緒に交流したり、自社で行う経営指針発表会で、どうしたらより働きやすくなるかについて討論してもらったりしている。角館の武家屋敷などを訪れ、日本文化に触れる機会も設けている。地元の西馬音内盆踊りでかがり火を焚く業務を請け負っており、そうした場面でも頑張ってもらっている。

この方々は、日ごろタガログ語と英語で生活している。技能実習の試験は日本語で実施されるので日本語を学ぶのは大変重要なことだが、スーパーやレストランなどは日本語表記しかないところが多く、英語の表記があればもう少し住みやすい地域になると感じている。英語表記に取り組む事業者への助成などあれば良いのではと思った。

また、実習生一人あたり、年間50万円ほどの管理費がかかり、日本人を雇用するより少し高くなったりするため、こうした面の面倒を見ていただけると技能実習生が働きやすい秋田県になるのではないかなと思う。

(進行役)

私はベトナムの技能実習生送り出し機関を何度か訪れたことがあるが、やはり、日本人と同じ人事評価で評価することが大切だと感じた。

(知事)

技能実習生の制度については、現在日本の賃金が上がらないため、ヨーロッパも含めた競争になると思う。制度改正後は、社会保障なども日本の一般の従業員と同じ扱いにし、永住につながるのではないかと感じる。表記については、外国人が多い都市では併記が標準になっており、秋田市でも英語表記を多く見かける。今は、スマートフォンで簡単にコミュニケーションができ、地元のレストランなどでも、お金をかけず対応できる方法としてスマートフォンを活用すれば良いと思う。経営者の方は気づいていないが、そんなに難しいことではない。補助金は別にして、商工会などで難しくなく対応できるのでは。外国人が相当数地域に入り込んでくる時代がそう遠くなく来るので、地方に行けば行くほど抵抗のある宗教や習慣の違いを地域でいかに許容していけるか、皆さん若い方々がブレイクスルーする必要性を感じている。

(進行役)

4月にゆざわビズのセンター長の紹介を受け、ベトナムに行ってきた。視察先が、ベトナム全土の大学と提携する技能実習生の送り出し機関で、1年かけて徹底した日本語教育を行っていた。皆優秀で、すぐに日本語をマスターしており、日本で大卒の即戦力として活躍できるとのこと。中には、秋田のメッキ工場や電子部品会社に就職が決まったという人もいた。向こうは建設不況なので、大学を卒業した優秀な人材が海外で働きたいとのことだった。

(C氏)

国籍関係なく、多様性の時代なので色々な人を雇いたい。女性や外国人などの即戦力となる人材に魅力的に見えるような職場を作っていきたい。

(進行役)

まとめとして、この会を通して感じたことを教えていただきたい。

(A氏)

私たち建設業は、有事の際に即時に出て、応急処置をするという重要な任務を持っており、若い人材の確保は重要。先ほど奨学金の制度で、湯沢市では企業に対して3割の助成があると伺ったので、羽後町にもお願いしたいと思う。引き続き勉強し、建設業を盛り上げていきたいと思った。

(F氏)

建設業界に入って3か月しか経っていないが、意見交換を通して業界として取り組んで来たことを知ることができ、ためになることも多かった。

(D氏)

今まで現場での仕事がメインで、人材確保や女性視点での色々な意見、それぞれの会社に取り組むことなどを知ることができ、とてもためになることが多かった。

(B氏)

子育てをしながら仕事をする大変さや困っていることを、ぜひ知事に知ってもらいたくて、色々を用意してきた。二つだけ話したい。まず、一人目出産後に仕事復帰した際、仕事と両立させるため時短勤務をお願いした。両立してやっていたと思う矢先、やはり保育園からの呼び出しがあり、月に半分ぐらい仕事を休むことになった。そういう状態でも保育料は1か月分かかり、時短勤務で給料は少なく、保育園に預けるために働いているような感じになってしまい大変だった。また、子どもが休む際、女性側が休みを取って対応することが多いと実感している。女性側の働き方だけでなく、男性側の働き方も少しずつ変わってほしいと切実に思っており、子どもが小さいうちは残業をなくすなど、会社側からも休暇取得のアプローチをしてもらえれば男性も休みやすいのではないかと思う。男性の育児休業取得率も上がっていけば本当にありがたい。

(E氏)

中学生の娘がいるが、子育てを思い返すと、2歳で保育園に預け、熱が上がって休むときは、同居している両親に迎えに来てもらっていた。子どもが病気になるのは仕方のないことなので、病児保育に対応してくれる施設があれば嬉しい。

(知事)

地方では、病児保育に長けた保育士も少ないし、保育士の絶対数も少ないこともあり、病児保育は少ない。フランスでは、子どもの都合で親が仕事を休むのは全て有給で、法律でそう決まっているそうだ。日本とフランスでは制度そのものが違う。社会制度がそうであれば、全ての会社が同じ対応なので不平等がなくなる。児童手当を高くするのもいいが、有給制度を企業任せにせず、不公平が生じない制度設計など考えなければならない。

(C氏)

Bさんが入ったことで、会社がとても活性化したことを実感している。もっと色々な人が働きやすい会社に形を変えなければならないと思う。また、知事の洋上風力関連産業にどんどん人が集まってきているという話に共感した。沿岸の人たちとよく話をするが、年収がどんと上がっているのも、それにつられて我々も上げざるを得ない状況。良い循環が生まれていると思うので、当地域でも洋上風力に負けないようなビッグなプロジェクトを官民みんなで一緒に作りたい。うちの新社員たちも、人の役に立ちたいから建設業を選んだと言ってくれるので、そうした人の役に立つ仕事を、みんなで作っていったらいいと思う。

(進行役)

我々建設業は、公共事業の中で単価もしっかり見られているのだから、やはり率先して取り組んでいきたい。一方で、地場産業で人が取れなくなり、競争力がなくなっているのではないかとというのが心配点。いずれ、こうした流れのなか、給与、全体の働き方改革も含め、取り組んでいかなければならないと思う。

知事総括

建設業協会や商工会議所とは頻りに会議をやっているが、そうした場で聞くことのできない生の現場の話、若い方、女性の様々な角度からの話を聞いて、初めて分かったこと、色々な面で教えてもらったこともある。奨学金の問題は、県でも奨学金を活用しながら何かできないか検討しており、話を

聞くことができ大変参考になった。

課題はたくさんあり、特に少子高齢化は避けようのないことで、何をやっても25年先までは人口の減り方が決まっている。

何もない秋田とよく言われるが、あまりにもありすぎる秋田と私は皆さんに言っている。色々な面で御苦勞をかけるが、今日は色々な勉強をさせてもらった。この地域で骨を埋めるわけだから、色々な面で努力して、試行錯誤でも投げ出さないで、みんなで地域を良くしていきたい、という思いを持ってトライしてもらいたいと思う。